

「薬学の時間」

■放送 毎週火・木曜日 ラジオNIKKEI 20:10~20:25

キノコ毒による食中毒

(2008年10月16日)

長野女子短期大学客員教授

山浦 由郎

食用キノコでも中毒を起こす場合がある

日本では秋の味覚の代表としてキノコがよく知られているように、日本人は世界でも有数のキノコ好き民族です。特に近年の自然食志向やグルメ嗜好を反映して、キノコ狩りはいまブームになっています。一方、野生のキノコは昔から試行錯誤を繰り返しながら、経験的に毒キノコと食べられるキノコを識別してきました。しかし、近年未熟な知識から、毒キノコを食用キノコと誤って食べて中毒を起こす事例が増えています。日本には数千種類のキノコが自生していますが、これまで人に何らかの有害作用を及ぼす毒キノコは約150種類ほどが見つかっています。そのなかでも特に中毒事例が多い毒キノコは約50種類です。

キノコ中毒はキノコに含まれる毒成分によって起こるのが一般的ですが、食用キノコでもキノコが間接的に中毒の原因となる場合があります。

- ①キノコをおいしいとたくさん食べ過ぎた場合です。キノコは食物繊維が多く消化されにくいいため、消化不良を起こしたり、また胃腸の過敏な人は胃腸障害を起こしたりします。
- ②キノコを生で食べて起こす中毒があります。特に最近ではサラダなどにして食べて、アレルギー症状を起こす人が増えています。
- ③腐敗したキノコによる中毒です。食用キノコでも古いものや、虫により傷が付いたもの、またキノコの保存方法が悪いと細菌やカビによって中毒を起こします。冷蔵庫に大事に

保管していたマツタケにより、中毒を起こした事例もあります。

- ④キノコだけ食べても何ともないのですが、アルコールとの食べ合わせにより中毒を起こす特異的なキノコがあります。ホテイシメジ、ヒトヨタケ、スギタケなどです。中毒症状はお酒を飲んで30分から1時間後に、顔、頸、手、胸が赤くなり、激しい頭痛、めまい、さらに心悸亢進、頻脈、血圧低下が起こります。重症では呼吸困難、意識不明になります。中毒メカニズムはアルコール分解酵素の一つ、アセトアルデヒドデヒドロゲナーゼが阻害され血中アルデヒド濃度が上昇するため起こります。これは医療でアルコール中毒患者の治療に用いる嫌酒剤のジスルフィラムと同様の作用機序です。
- ⑤食用キノコでも微量のシアンを含むキノコで中毒を起こすことがあります。シアン産生キノコとしてたとえばニオウシメジ、マイタケ、エリンギなどがあります。通常は微量なので体内のロダネースという酵素で分解されますが、たくさん食べたり、加熱調理が不十分だと中毒を起こしたりすることがあります。ちょうど4年前の秋に東北地方を中心に原因不明の急性脳症が発生し、患者数六十余名、死者19名という悲惨な事件がありました。患者の多くがスギヒラタケを食べていたことがわかりましたが、スギヒラタケはこれまで食用キノコとして特に東北地方では一般的によく食べられていたキノコで、過去に中毒事例の報告はありませんでした。現在までに中毒学的アプローチの研究がいくつか行われていますが、原因の特定には至っていません。しかし、スギヒラタケに含まれるシアンイオン濃度が、その年の異常気象からか例年に比べ高い値を示したことから、シアンによる可能性が示唆されています。

毒キノコによる中毒症状と応急手当て

次に毒キノコについてお話します。日本で中毒事例が多い代表的な毒キノコを中毒症状によって分類すると、消化器障害型、神経障害型、死亡率が高い細胞毒性型の三つに分類することができます。

①消化器障害型毒キノコ

中毒症状はキノコを食べて20分から2時間後に悪心、嘔吐、下痢などの胃腸症状が発現し全身の倦怠感もあります。この症状を起こす毒キノコには、ツキヨタケ、クサウラベニタケ、カキシメジ、ドクヤマドリ、ニガクリタケなどがあります。このなかで特にツキヨタケ、クサウラベニタケカキシメジの3種類は日本で中毒発生頻度が高い毒キノコで、キノコ中毒全体の約60%を占めています。

②神経障害型毒キノコ

神経症状によってさらに次の四つに分けられます。

一つ目は副交感神経刺激型です。中毒症状はキノコを食べてから10～30分後に激しい発汗、唾液など腺分泌が亢進し、目の瞳孔は縮小します。徐脈から血圧低下、重症では精神錯乱など中枢神経症状が発現し呼吸困難を起こして意識が喪失します。この中毒型の毒キノコは、アセタケの仲間やオオキヌハダトマヤタケなどです。

二つ目は副交感神経麻痺型です。中毒症状はキノコを食べてから30分から1時間後に異常な興奮、よだれ、瞳孔は散大し、さらにはうわ言、錯乱状態になり、症状が進むと痙攣、筋硬直、意識不明になります。この症状を起こす毒キノコはテングタケ、ハエトリシメジ、ベニテングタケなどです。

三つ目は中枢神経麻痺型で幻覚を起こす毒キノコです。中毒症状はキノコを食べてから30分から1時間に幻視、幻聴などの幻覚、また知覚麻痺が起こり、めまい、言語障害、酩酊状態になります。重症では精神錯乱、筋弛緩が起こり意識不明になります。この症状を起こす毒キノコは、シビレタケ、ヒカゲシビレタケ、ワライタケなどです。

四つ目は末梢血管運動神経刺激型です。中毒症状はキノコを食べて数時間以上してから不快感、吐き気、しびれ感、全身倦怠感があり、数日後には手足末端が赤く腫れ上がり浮腫を起こし激痛が伴います。ドクササコがこの症状型の毒キノコで、これまで新潟県で多く発生しており死亡者も出ています。

以上が神経障害型毒キノコです。

③死亡率が高い細胞毒性型毒キノコ

症状によってさらに次の三つに分類されます。

一つ目はコレラ様症状型です。中毒症状はキノコを食べて6～10時間以上の潜伏期間後に突然の腹痛、激しい嘔吐、下痢を起こし、以後コレラ様の水様性下痢が反復継続して脱水症状を起こします。血糖値および肝グリコーゲンが著しく減少し、糖代謝異常または肝細胞の壊死が起こります。中毒末期には黄疸、中毒性腎炎から肝不全、腎不全となり、肝性脳症を併発して死に至ります。致死率が50%と非常に高く日本での死亡例のほとんどはこの症状型に属する毒キノコです。この中毒を起こす猛毒キノコには、ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、タマゴテングタケコレラタケなどがあります。

二つ目は溶血障害および心機能不全を起こす毒キノコです。中毒症状はキノコを食べてから10～30分後に嘔吐、下痢、目の瞳孔が縮小し、背筋硬直、言語障害、血尿から心機能障害、意識不明になります。この中毒を起こす毒キノコはニセクロハツで、食用のクロハツによく似ているため誤食されることが多く、昨年、一昨年と中毒があり、2名が死亡しています。

三つ目は毛細血管など循環器障害を起こす毒キノコです。中毒症状は毒キノコを食べてから30分から2時間後に悪寒、腹痛、頭痛、激しい嘔吐、下痢、喉の乾き、顔などの粘膜性びらん、脱毛など特異的な症状が現れます。重症では腎不全、循環器不全、脳障害などの全身症状が現れ死に至ります。この中毒を起こす毒キノコはカエントケで、一昨年に3名の中毒例がありましたが、幸い死に至りませんでした。

最後にキノコ中毒が起きた場合の家庭での応急手当てについてお話します。

- ①胃洗浄：ぬるま湯または1%食塩水を大量に飲ませ、喉の奥を刺激して食べたキノコを吐かせます。
- ②吸着剤：細かくすりつぶした炭や活性炭を水と一緒に飲ませ、それらに毒成分を吸着さ

せ、毒成分の体内への吸収を少なくします。

③水分を十分補給し、利尿や排便を促し、毒成分を体外へ出すことを心がけます。

以上が応急手当ですが、キノコ中毒の症状は毒キノコの種類によって異なるため、処置法も異なります。したがって専門的な治療は必ず医師の診察を受ける必要があります。